

広報

ひがしゆり

1991-3

No.432



高橋宏幸の世界

12
町出身・絵本作家



一九二三年老方に生まれる。
長年児童図書の編集にたずさ
わり、のち創作活動にはいる。
文・絵・実技指導と幅広く活
躍。「チロヌップのきつね」
など数多くが海外でも出版。

絵本「七色の雪」

むかし、台山の奥に「センコ」と呼ばれた堤があった。センコという名の若い女性が身を投じた沼とか：いわれはともかく、こども心にもうす気味悪い沼と感じていた。そんな所には、きまって「危ないから近よるな」という戒めをこめた伝説が生まれるもの。七色の雪を降らせてこどもを誘う雪女が登場するが、単なる怪談ではない。幼い胸に宿った自然への小さな畏怖の種が、いつか発芽し、郷愁の花を育くみ、姉弟愛のドラマとなって実を結んだもののように思う。古里を舞台にした唯一の絵本として忘れ難い一作である。

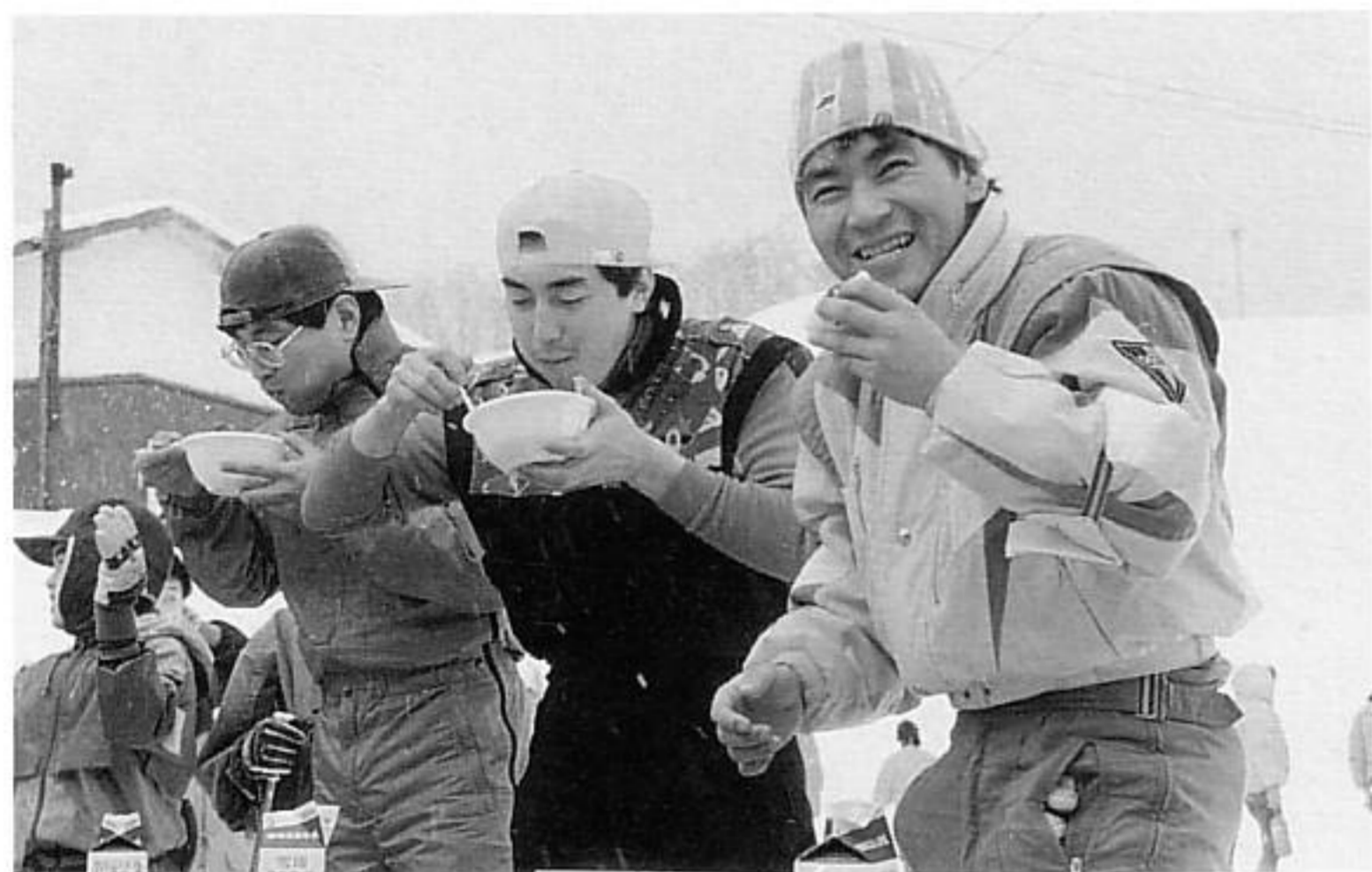
以上、十二月月にわたった拙作の表紙絵シリーズは、この号で閉展となる。ご鑑賞くださった郷里の皆様、心から感謝申し上げますと共に、貴重な場を提供してくださった町役場広報課の方々に、厚く御礼申し上げます。

皆さん、これを機に「手づくり絵本」に挑戦してみても如何が。むずかしく考えることはない。過去の思い出、夫婦のそもそもから、子育ての体験、飼育農耕の記録、なんでもけっこう。自己表現の新しい分野として、生きがいの拠り所として、家族のコミュニケーションとして、ぜひおすすしたいと思う。
(拙著「手づくり絵本入門」は公民館に)

第7回大平雪まつりが2月2、3日の2日間大平スキー場で開かれました。両日とも、時おり晴れ間はみえたものの風雪模様の天気となり、天候不純や折からの大雪により屋根の雪おろしをする家庭も多かったことなどから、入場者の数は2,800人余りと昨年より700人余り下回りました。

今年も、スキー大会、早食い大会、雪上トライアスロンなどに大勢が参加したほか、町内企業などの協力による花火大会は好評で、会場では花火が打ち上がるたびに歓声が湧き起こっていました。

また、農協青年部・婦人部、商工会、森林組合、青年会などの出店も好評で、準備した品々は2日間でほぼ完売しました。



食通に大人気の「早食い大会」には今年も大勢が参加



「たいまつ滑走」(写真手前)による炎のイルミネーション



雪まつりを飾る花火大会は町内企業などの協力で実施

「いかがでしたか？雪まつり 冬花火がきれいでしたね



風雪の晴れ間を縫って色鮮やかな光りの点滅を見せたメイン会場のゲート

スキー大会入賞者

参加者七十人(敬称略)

〈小1・男子の部〉

- ①阿部 大真(高瀬)
- ②長沼 淳(〃)
- ③高橋 有(〃)

同女子の部参加なし

〈小2・男子の部〉

- ①小松 裕介(高瀬)
- ②横山 隆弘(八塩)
- ③小野 貴之(〃)

〈同・女子の部〉

- ①小野ひろみ(大琴)
- ②畠山 春美(〃)

〈小3・男子の部〉

- ①寅田 文和(高瀬)
- ②遠藤 亮太(〃)
- ③鈴木 誠也(大琴)

〈同・女子の部〉

- ①畑山あつ子(大琴)
- ②小野 加代(高瀬)
- ③小野 昭枝(〃)

〈小4・男子の部〉

- ①石綿 民紀(大琴)
- ②佐藤 陽(高瀬)
- ③大庭 幸人(大琴)

〈同・女子の部〉

- ①高橋 彩子(高瀬)
- ②小野みゆき(大琴)
- ③大庭 恵美(〃)

〈小5・男子の部〉

- ①大庭 洋介(大琴)
- ②小松 慶彦(八塩)



佐藤忠一郎さん

液晶ビジョンなど百万円相当寄贈 高屋出身の佐藤さん母校大琴小に

町出身者で千葉県習志野市に住む佐藤忠一郎さん（八〇歳）から大琴小学校に、液晶ビジョン一台、一輪車十台、タオル、図書購入費など総額にして百万円相当が甥の長谷山一恵さん（舟木）を通して寄贈されました。また、特別養護老

人ホーム東光苑にもタオル百数十本、下着などが寄贈されました。突然のビッグなプレゼントに大琴小の児童たちは、「液晶ビジョンは以前から欲しかった。大事に使います」と大喜びしています。佐藤さんは高屋の出身で、尋常高等小学校を卒業後上京し芸能界入り、昭和二十五年からは船橋競馬場に勤め、のちに十七〜八頭の競争馬をかかえる「佐藤忠廐舎」の経営者となり、業界に名の知られる方です。高齢を理由に昨年から息子に経営を委譲していますが、業界では競争馬売買で高い手腕を持つ佐藤さんを離せず、佐藤さんは現在も全国各地を飛び回る多忙な毎日を送っています。

寄贈について佐藤さんは、「いささかで恐縮だが母校の子供たちに喜んでもらえたら……」と話すとともに、町活性化のために「収益性の高い競争馬を生産したらどうか。昨年帰省し出羽丘陵開発造成地を中心に町内を一巡したが、現状では条件が悪く無理。しかし、今後二〜三分の牧場が立地できれば可能性はある。協力は惜しまない」と話してくれました。

ミス黄桜2人（写真右）がモデルの「モデル撮影会」。殺到したアマチュアカメラマンを前に、慣れないポーズ（写真左）



賞品目当てに子供たち大勢が参加した「雪上トライアスロン」。大人にはちよっぴりキツかったかも



商売繁盛の出店。好調な売れ行きにご婦人たちもえびす顔



- ③ 小松 佳央（〃）
〈同・女子の部〉
- ① 鈴木 美沙（大琴）
- ② 阿部 和江（〃）
- ③ 菅野 彩子（高瀬）
〈小6・男子の部〉
- ① 菅原 良治（八塩）
- ② 畠山 広喜（大琴）
- ③ 小笠原秀和（高瀬）
〈同・女子の部〉
- ① 小林由起子（高瀬）
- ② 小松まもり（八塩）
- ③ 小笠原美喜（大琴）
〈中学・男子の部〉
- ① 大庭 朋和（2年）
- ② 小松 賢二（〃）
- ③ 畑山 敦（〃）
〈同・女子の部〉
- ① 石綿 真紀（1年）



「若者定住」について討論

在京町出身者のアイデア提供などをねらい、第三回町づくり懇話会を二月十七日東京都新宿区中落合の中井で開きました。

出席者は、東京東由利会の役員など在京町出身者十人と、町側から町長、町議会正・副議長、各常任委員長など九人で、今回は町が平成三年度の重点施策に掲げようとしている若者の定住対策をテーマに話し合いました。ここでは、話し合いの一部をご紹介します。

会議は午後二時過ぎに始まり、

入りました。 話題ははじめ魅力ある職場の確保などに傾注、在京者からは「地元企業のPRが足りないのではないか。就職者自身によって職業が選択されるものの、人材が必要であれば人事対策にもっと真剣に取り組むべきだ」、「企業に収容能力があるとするならば、町営住宅や社宅などを整備し、近隣市町からも採用すべきだ」などの意見が出されました。これに対し町側からは「高卒者の就職については教師の進路指導の影響も大きく、今後の課題」、「生活をエンjoyするための働くなど、若者の仕事に対する価値観が変わってきていることを認識し対策をとる必要がある」などのほか、「町営住宅は新年度で調査、四年度から建設の予定」など具体策を述べました。



終始真剣なまなざしで行われた町づくり懇話会（東京・中井）

このあと話題は住宅環境整備などに移り、「東京でも台東区などでは人口減少が進み、都営住宅居

住者への助成などの対策をとっている。これは地価高騰なども原因

となつてはいるが、いずれにせよ過疎化に対し住宅、社宅、分譲地の整備などは当然必要なこと。要は時代の要求にどう応えるかであり、それを他に先がけてやる必要が必ずやではないか」、「町に残るための環境整備の一つとして、居住スペースの整備に対して助成したらどうか。二世帯、三世帯家族が快適に生活できるような居住空間があれば、町を出る気持ちを抑制できるし、嫁・姑問題も緩和される

ように思う」、「快適な住居のためには水洗トイレなど浄化槽や下水道の整備が必要」、「東京には六畳ひと間かふた間で生活している家族が大勢いる。この人たちをターゲットに、住居や職場、子供の教育など、東由利での生活が成り立つことを打ち出せるとするならば、何か新しい人口対策が生まれてくるような気がする」などの提案が活発に出されました。

で農地を耕し収益で海外旅行を実施するなど）▽由利牛を特産にしながらかみ牛を食べさせるレストランも売店もないのは納得できない▽東由利町には都会にない人間らしい生活がある。それを理解できるような広報などで対外的にPRし、「真に幸せな生活」を積極的に打ち出していく必要がある……など、さまざまな意見や提案が打ち出されました。

このほか▽減反農地をサラリーマンに貸し、余暇を利用し楽しみながらできる農業の確立を（野菜や園芸作物の生産）▽減反農地を利用した若者定住策を（若者グループが借用した農地で特産品を研究。交流・親睦を目的にグループ

を終始真剣なまなざしで行われた懇話会は午後六時近くまで続けられ、このあと懇話会でも町づくりの方策について意見が交わされました。これら意見・提言を、どう若者の定住対策に生かすか、町政への期待が寄せられるところです。

高橋宏幸氏/新書出版で個展開く

表紙絵とは今月でお別れ…

昨年四月から当広報紙の表紙を飾っていた、高橋宏幸氏が、第一回高橋宏幸/絵本画展を二月十八日〜二十三日まで東京神田神保町の「檜画廊」で開催、町づくり懇話会に出席した町長、議長、常任委員長ら一行が初日の十八日に会場



町づくり懇話会に出席した一行が高橋氏（写真中央）の個展を訪問

を訪問しました。 この個展は高橋氏がロマン絵シリーズとして「マンモス少年ヤム」「ローランの王女」「オオカミ王ぎん星」（小峰書店・各九八〇円）を出版したことを記念して開いた

もので、会場にはその原画を中心に三十点を展示、繊細なタッチで描かれた作品を一行は興味深く入念に鑑賞しながら、同氏の活躍ぶりに改めて敬意を表しました。同シリーズの出版で高橋氏にこのほど平成二年度日本児童文芸家協会賞が贈られることが決定。この賞は児童文学界の「直木賞」ともいわれる価値の高い賞です。

おめでとうございます。 当広報紙「高橋宏幸の世界」は今月で終了することになりますが、いつかまたご協力をいただけますことを強く念願し、一年間のご協力に心から感謝申し上げます。 ありがとうございます。

一頭平均三万七千円安でスタート

子牛初競り 本町平均価格は四十七万四千元

四月からの牛肉輸入自由化を前にして、子牛の初競りが二月八日と九日本荘市石脇の由利家畜市場で開かれました。

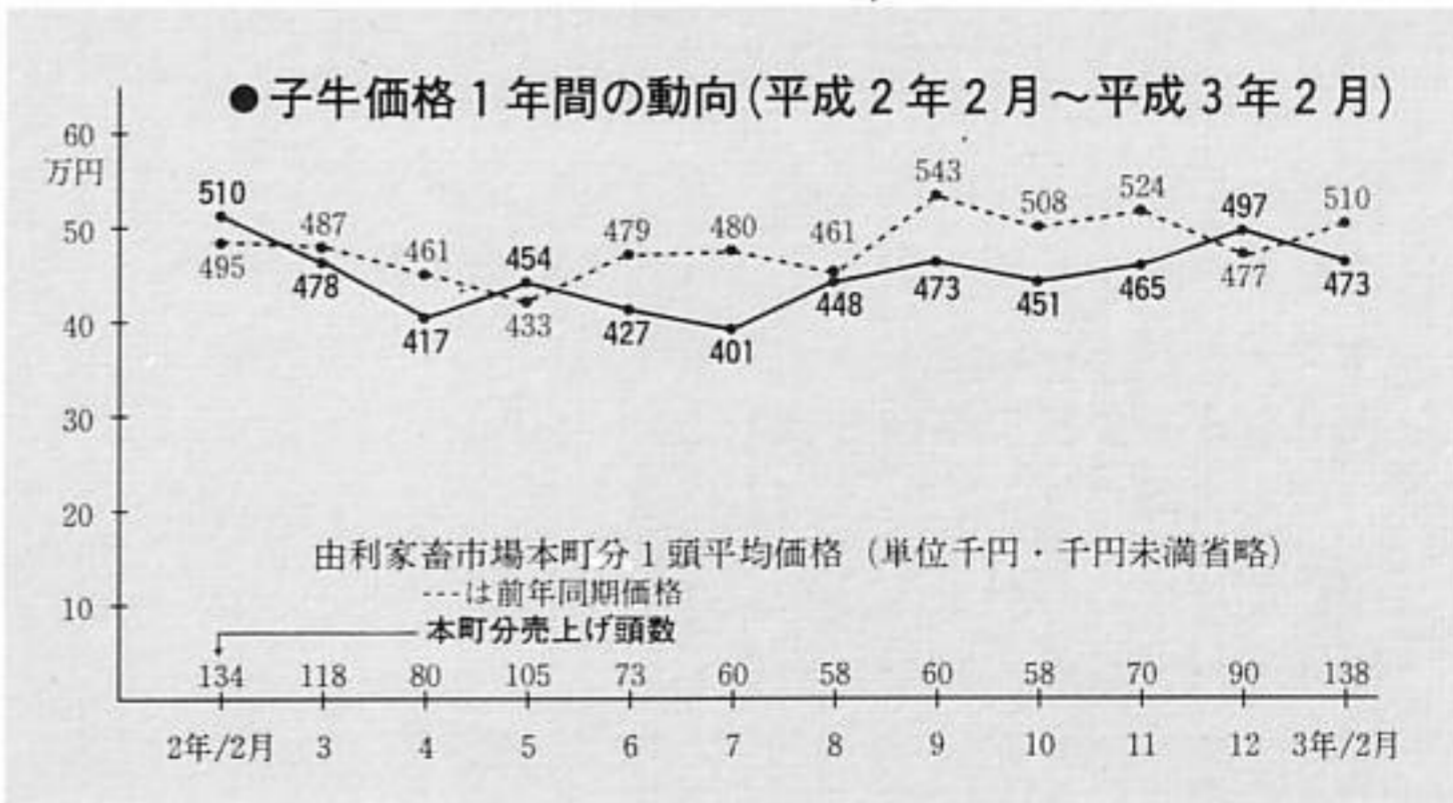
初競りにかけられた子牛は二日間昨年より五十頭ほど多い五百九十頭で、このうち五百六十頭が競り落とされました。一頭当たりの平均価格は四十四万四千円で、昨年より五万一千円余りダウン。最高価格も七万一千円余り低い八十三万九千四百五十円にとどまりました。



牛肉自由化を目前に行われた子牛初競り

本町から競りに出された子牛は百四十七頭で、このうち百三十八頭を売買、平均価格は四十七万三千九百十九円と昨年より三万七千余りダウンしました。

平均価格の低下について同市場では、「景気の動向を反映したものとと思われる」と分析しており、四月からの牛肉輸入自由化に伴う買い控えの動きもほとんどなく、競りに出した畜産農家は比較的に明るい表情で初競りを見守っていました。



また初競りには、後継者難などで全国的に肉用牛の不足傾向が続いているとあって、東北や静岡、長野、新潟、群馬などの各県から農協の担当者、農家、家畜商ら多数が参加していました。

昨年の売り上げは 四億二千八百万円

本町の昨年一年間の子牛上場頭数は九百七十二頭で、町が目標としている一千頭の間近まで迫りました。このうち売買した子牛は九百七頭で、売上高は四億一千九百二十六万六千円となりましたが、高値で推移した平成元年に比べると八百八十四万円の減少となりました。

畜産講演会が二月二十日有鄰館で開かれ、今年も二百人を超す畜産農家が参加、講師は秋田県家畜改良審議委員、同家畜商組合理事、中央畜産農業協同組合理事などの要職にある小林俊夫氏(写真)で、牛肉自由化と今後の低コスト肉用牛経営について約一時間半講演しました。要旨は次の通りです。



講演 要旨

規模拡大で低コスト経営を

いよいよ四月から牛肉の輸入自由化が実施されるが、三年間は関税措置が行われるため当面は価格に大きな変化はないだろう。それに、国内における牛肉の消費状況が年間一人当たり六〜七キログラム程度

であることや、日本人の高級指向からしても、輸入牛肉が大量に消費される時代はまだ先のことだと考えている。また、現在アメリカやオーストラリアを中心に日本の商社や食肉加工メーカー三十

肉への関税措置、国内措置として免税のほか子牛価格安定基金や大家畜経営体質強化資金の設置などで和牛生産農家を保護することにしている。こうした制度を逃さず

に更に経営を拡大してほしい。繁殖経営における低コスト対策の一つは、いかにして粗飼料を利用するかであるが、約半年間しか粗飼料を採ることができない条件下ではサイロ利用が決め手となる。省力化され後継者の魅力にもなる

社余りが進出し、牛肉の大量輸入を企てているが、長年にわたり改良してきた日本の和牛には技術的にも太刀打ちできないだろう。和牛は気候・風土の産物でもある。国では自由化対策として輸入牛

魅力ある畜産経営につながる。三〜五頭の経営規模で一頭当たり三十五万円の生産費がかかるのであれば、十頭では同十七万円の試算となる。こうした多頭化を実現すれば、若い人も魅力を感じ、後継者が生まれるのではないかと。後継者対策で大事なことのひとつは、ある程度の規模を持ち他の職業なみの所得が得られる経営にすること。そのためには目標をきちんと定め、若い人にやる気を起こさせ畜産経営に対して魅力を感じさせることが必要なのではないか。

カメラトピックス

町のわだい



町内小・中学校の備品などの修繕に手分けしてあたる町技能組合青年部員

170件超す備品などを無料で修繕

町の技能組合青年部が2月16日、町内小・中学校の机や椅子など、破損した備品を無料で修繕する労力奉仕作業を行いました。この奉仕作業は、普段は忙しい町内の若い職人さんたちが、比較的仕事に余裕のあるこの時期に毎年行っているもので、まごころのこもった社会奉仕として関係者から喜ばれています。

今年も机や椅子を中心に、校舎の壁や天井などの修繕作業に16人の部員が手分けしてあたり、170件を超す備品などを無料で修繕しました。

休み時間には子どもたちも作業を見守り、廃品同然の机や椅子を見違えるほどに更生した部員たちに温かい感謝のことばを送っていました。

春の全国火災予防運動実施中

一年のうちで最も

火災の多い時期です

冬から春先にかけてが、一年を通じて火災が最も多いのをご存じですか。この時期は空気が乾燥し、強風が続くなど、火災が発生しやすい条件がそろっています。それだけに、ちよつとした火への不注意が、大きな火災につながります。

15分に1件火災発生

五万五千七百六十三件——平成元年一年間に、これだけ火災が発生しました。死者は、千七百四十七人で、一日約五人の割

町長随想

町づくりのシンポジウムや地域づくりなどの諸会合での結論は、——町づくりは人づくり——と、判を押したように同じ結論である。議論をふりかざして見ても、実行する人間、やる気人間がいなければ町づくりは進まないからである。人づくりの施策は、言うに易く行うに難し……。でも、そのための施策を一つひとつ着実に積み上げていくことによって、その成果は必ず期待の方向に進むことだけは確かである。そこで、そのやる

気起こしの施策は行政責任と考え、これまでいろいろな行政施策の実践を積み上げてきた。「論より証拠」という子供の頃の「イロハかるた」を思い出したが、町づくりはこの「論より証拠だ！」というところを、最近特に感ずるようになった。先年、県町村会で主催した地域づくりのシンポジウムの結論が、「百の評論より一人の実践者だ」と大きく秋田魁新報に出たことを今更のように思い出す。

出羽丘陵の自然と調和したモ

町づくりは……論より証拠で

うれしい一年であった。「論より証拠」の成果を喜びたい。「あきたこまちと由利牛の里東由利町」を町のシンボル塔に掲げて以来、五年目の成果である。良質米生産体制こそ産地間競争

時代への先取りと考え、「適地適産」の「あきたこまち」と「ササニシキ」の作付指導を徹底してきた結果、昨年度で良質米の作付面積は九五〇を越えた。これに合わせ県内ではじめての「良質米生産技術指導員」制度を実践して技術

平均を大きく上まわる九七〇という、かつてなかった良質米生産が実現出来た。また畜産においては、黒毛和牛の年間市場販売頭数が目標の一千頭にあと一步の、九百七十二頭を出場するという成果を生んだ。県内ではじめての「畜産振興指導員」制度や、増頭対策など諸種の施策が畜産農家の努力と相俟って生まれた成果である。

（町長・畠山亮二郎）

体重の位置がポイント

第4回町民綱引き大会開催



総勢250人が参加した第4回町民綱引き大会

第4回町民綱引き大会が、2月24日健康増進センターで男子、女子共に7チーム、応援団を含め総勢250人が参加して開かれました。

トーナメント戦の結果、男子は4年連続でポパイスポーツクラブ、女子は玉米チャレンジャーチームが優勝。特にポパイスポーツクラブは今年1月に開かれた全県大会に出場、同大会で学んだ技術を生かし圧倒的な強さで優勝しました。

同チームの村上栄志さんは、「ポイントは体重を腰にのせ、選手8人の呼吸を一つにすることだが、全県大会ではレベルの違いをまざまざと感じさせられた。来年の全県大会までには技術にもっと磨きをかけ、上位入賞を目指したい」と話していました。

転倒者続出に笑いと歓声の渦が湧き起こった東中の雪上トライアル



授業忘れ雪に親しむ

東中で雪上トライアル開く

東由利中学校で二月七日、雪に親しみながら体を鍛えようと、全校生徒二百二十人余りが参加して「第一回雪上トライアル」を開きました。

この日は、晴れと吹雪がめまぐるしく入れ替わるあいにくの天気でしたが、給食を済ませたあと生徒たちは歓声をあげながらグラウンドに集合、クラスごとにピラミッドを作り高さを競い合ったり、スキーでリレーを楽しみました。特に、ふだん履き慣れないノルデックススキーでのリレーでは転倒者が続出、生徒たちは笑いと歓声の渦を湧き起こし、しばし授業を忘れての楽しいひとときを過ごしました。

「蔵むらの冬まつりっこ」にぎやかに開催



小正月行事を再現した「雪中田植え」(写真提供=蔵分館)

蔵分館と蔵地区コミュニティ協議会などの主催による恒例の「創作とくらしの工夫展」は、今年で十四回目を迎え、二月十四日大蔵館で盛会に行われました。

会場には地域住民や児童の作品が多数展示されたほか、甘酒のサービス、紙芝居、踊りなど多彩な催しが行われました。また屋外では雪中田植えなど小正月行事の再現や餅つき、凧あげ大会などがにぎやかに行われたほか、スノーモビル同乗会が子供に大好評でした。

この行事は、長い冬ごもりの暮らしを明るく活発に……との願いから開かれているもので、「蔵むらの冬まつりっこ」として地域にすっかり定着しています。

火災予防7つのポイント

家庭から火事を出さないようにするには、どのような点に気をつければよいのでしょうか。分かりきったことではありませんが、改めて、火の用心を兼ねた七つのポイントをまとめてみました。

- ①寝たばこやたばこの投げ捨てをしない
- ②子供には、マッチやライターで遊ばせない
- ③風の強いときは、たき火をしない
- ④天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
- ⑤放火予防のためにも、家のまわりに、燃えやすいものを置かない
- ⑥ふろの空だきをしない
- ⑦ストーブには、燃えやすいものを近づけない

まず消そう

火への鈍感、無関心

(今年の防火標語)

第3回婦人シンポジウム

もつと強く婦人。パワー

多様化した現代社会の中で、地域の課題を婦人の立場から探り語り合い、豊かで明るい町づくりを進めていこうとする、東由利町婦人シンポジウムが二月九日有鄰館で開かれました。このシンポジウムは町婦人団体連絡協議会（小野貞子会長）と町公民館が開いているもので、第三回目の今年は約二百人の婦人が参加しました。



約200人が参加して開かれた第3回東由利町婦人シンポジウム

シンポジウムは午前九時三十分
に始まり、小野会長の開会のあい
さつに続き来賓として出席した畠
山町長が、「地域おこし、町づく
りにおける婦人の役割は大きい。
特に本町では稲作や畜産、葉たば
こなどに対して婦人が大きな役割
を担っており、婦人たちの力で町
が支えられていると言っても過言
ではない。後継者不足など課題は
山積しているが、悲観せず希望を
持ち、常に前向きな姿勢で町づく
りに協力してほしい」と励ましの
あいさつを述べました。

このあと、元秋田さきがけ新報
社記者で秋田市教育委員の森可昭
氏が「地域活性化と婦人の役割」
と題して基調講演を行いました。

森氏は、「女性には子供を出産
する能力があり、それが物事をい
つくしみ育てるやさしさ、根気を
育んでいる。母性本能はそこから
生まれ出てくるものであり、その
母性本能によって社会が明るく活
気づけられているように思う。地
域づくりの基本は、住民が一体と
なって運動を起こし行政を動かす



基調講演をする森氏



フォーラムでは4人が話題を提供

ことにあるが、現代では職場が中
心の生活になってきている。女性
は家庭や地域の中心であることを
自覚し、いま一度家庭や地域を見
つめ直し、知恵を出し合い積極的
な住民運動を展開してほしい」と

地域づくりについて述べ、「日本
人は働き過ぎだと言われるが、私
は、ただ時間の使い方がヘタで、
欲張りなだけであって、むしろ遊
び過ぎのようにも感じている。そ
して、私たちの豊かさはローン、
クレジットなど借金に縛られた偽
りの豊かさではないだろうか。こ
うしたことを女性もつと見極め、

男性をリードし、やさしさと根気
を持って真に豊かな町づくりに貢
献してほしい。そのためには、女
性が一致団結し、パワーを爆発さ
せる機会を、長い年月をかけてで
も築きあげてほしい」と、婦人の
結束について強く訴えました。

このあと参加者は、町社会福祉
協議会ホームヘルパーで日本レク
リエーション協会指導員の大日向
幸子さんの指導で、約三十分間レ
クリエーションを楽しみました。
午後からは「地域づくりに果た
す婦人の役割」をテーマにフォー
ラムが行われ、県教育庁中央教育
事務所由利出張所・社会教育主事
の伊藤孝志さんをコーディネータ
ーに、本荘市社会福祉協議会長の
増川信勝さん、同由利出張所・婦
人カウンセラーの奥村タツエさん、
由利町企画開発課長の榎本義一さ
ん、平鹿町の大和谷道子さんの四
人が話題提供者となり活発な討論
が繰り広げられました。

フォーラムでは、婦人の果たす
役割について各々の意見を発表、結
論は見出せなかったものの、地域
の連帯を更に高める必要があるこ
とや、異世代間の相互理解を深め
合う必要があることなどを確認し
合うなど、有意義なシンポジウム
となりました。

主催した町公民館では、婦人た
ちが現実を抱えている課題など
について本音を出し話し合ったこと
で、今後の婦人団体活動のポイン
トが見出せたような気がする、と
同シンポジウムの成果を述べると
ともに、今回の話し合いをステッ
プに婦人団体活動をもつと強化し
てほしいと話しています。

今年の新入学児童は78人



4月からはピカピカの1年生（写真＝みどり保育園）

今年町内の小学校に入学する児童は昨年より十一人多い七十八人です。八塩小で十三人、高瀬小で二人昨年より増えましたが、大琴小では四人減っています。ここでは、春を待つ新入学児童七十八人の名前を二紹介します。

（二月一日現在・敬称略）

八塩小・34人（男23人・女11人）

住所	児童氏名	保護者
地下ノ沢	高橋 拓也	守 子
〃	長谷山雄大	友 子
〃	長谷山 智	栄
葎 沢	佐藤 主税	好 市
向 田	渡辺 智幸	建 二
〃	佐藤 孝太	太智雄
智者鶴	小松 嘉紀	和 男
〃	横山 雄也	一 郎
泡ノ淵	小松田友樹	三 郎
〃	佐藤 浩司	良 一
高戸屋	小松 大輔	功
時雨山	渡辺 聖也	仁
田 代	阿部 恵	小松幸子
〃	嶽石 弘基	一 人
石 高	斉藤 正人	茂 男
〃	長谷山洋一	肇
下小路	小野 裕子	善 久
〃	小松 大華	正 二
宇戸坂	佐藤 碧	力 弥
館 西	遠藤ひろみ	幸 男
〃	佐藤 桐生	謙
五海保	小野 雅人	和 敏
〃	荘野 達也	功
久 保	鞆崎 睦美	和 博
板 戸	石橋慎太郎	一 視
松 柴	小松 謙一	京 子
〃	佐藤 一紀	茂 一
〃	高橋 美佳	春 雄
新 沢	佐藤 真吾	栄 志
館合新田	小松 陽子	賢
〃	高橋 亜弥	和 夫
〃	畑山 鈴菜	一 廣
須郷田	小松 慧太	忠 広
〃	柴田三紀子	和 尋

高瀬小・31人（男17人・女14人）

住所	児童氏名	保護者
新 町	工藤 有紀	正 栄
〃	佐々木亮介	吉 一
〃	佐野 優子	拓 和
〃	佐藤 健二	明
上 通	畠山 満洋	満 春
中 通	伊藤 肇	主 税
〃	小松 舞	昌 英
下 通	小野みゆき	治一郎
〃	高橋由貴子	陽 悦
湯出野	佐藤 忍	久 穂
寺 田	畠山 朋	金 悦
祝 沢	遠藤 和彦	寿 幸
上 里	小野 公寛	克 弘
〃	小野 徳昭	勝 徳
〃	小野 智秋	幸 喜
横 渡	木島 留美	久 一
岩 館	阿部奈央子	陽 悦
蔵	阿部 元子	和 弘
〃	石渡 裕	次 雄
〃	遠藤はるみ	憲 一
蔵新田	阿部 真澄	清 和
〃	阿部 重政	重一郎
〃	遠藤 裕子	五 男
〃	小野絵李果	智
野 田	遠藤 勇樹	晃
〃	遠藤 優太	勝
新 処	遠藤 健光	一 巳
〃	工藤 邦彦	仙 一
小 倉	遠藤菜々子	武
〃	遠藤 信二	正 悦
〃	遠藤希咲子	清 喜

大琴小・13人（男7人・女6人）

住所	児童氏名	保護者
袖 山	高橋 浩和	孝 次
大 琴	浅田 裕司	照 信
〃	佐々木綾子	喜 隆
〃	佐々木栄伸	栄
〃	佐々木克彦	安 彦
舟 木	鈴木 怜史	文 一
高 屋	小野 香織	信 夫
宿	遠藤麻衣子	久
〃	小野元太郎	長 一
〃	小野 浩士	真 一
大 台	木島 真記	清 夫
沼	鈴木はる香	和 夫
本莊市三ツ方森	猪股 有美	茂 治

子供の行動特性

- ①一つのことに注意が向くと、まわりのものが目に入らなくなるものです。このためボールが道路へ転がっていったり、道路の向こう側にいるお母さんを見つけたりすると、急に道路へ飛び出したりします。
- ②物事を単純にしか理解できません。例えば、手をあげさえすれば車は必ず止まってくれるものと思込み、車の停止を確認しないまま道路を渡り出します。
- ③何かうれしいことがあると、

交通事故が子供を狙っています

保育園や小学校の入園・入学などで、小さい子供たちの行動が活発になるシーズンです。このため、この時期、子供の交通事故の多発が心配されます。親もドライバーも、次にあげる子供の行動特性などについて正しく理解し、子供を悲惨な交通事故から守りましょう。

④「あぶないよ」とか「気を付けて」というような抽象的な言葉だけでは理解できません。⑤信号を無視して道路を横断する大人を見たりすると、子供はすぐにマネをするものです。

⑥いつも通る道路では交通ルールを守ることができて、別の道路でそれを応用して守ることはなかなかできません。

以上のような子供の特性を踏まえたうえで、保護者、特にお母さんにお願ひします。子供に交通ルールなどを教えるときは、ふだん子供が利用する道路などで、具体的に、習慣になるまで何度も繰り返し教えるようにしてください。

また、ドライバーの方にもお願ひします。住宅街や道幅のせまい場所では、特にスピードを落とすなど安全運転をお願ひします。事故を起こすと被害者やその家族はもちろん、加害者にも悲惨な現実が生まれることは言うまでもないことです。

かたが

小野 久一さん(22歳)
須郷田・農業



家業は稲作を主体とした第一種兼業農家で、私は農業のかたわら土建業の「佐藤組」に勤めています。長男であるからして自然に後継ぎとして農業の道を選び、農業のおもしろさを少しづつ見つけ出しているこの頃です。いま日本の農業は苦しい情勢にありますが、社会にもっと農業の偉大さを思い

知らせることが必要だと思っています。それから、町でも、もう少し農業者に目をくばり、協力していくべきだと思っています。趣味は、気の合った仲間同志で一杯やりながら自分たちのことについて語り合うことです。あとは野球くらいかな？。理想の女性はあまり見栄を張らない人、そして気持ちのやさしい人がいいですね。モットーは自分の仕事に自信を持ち、何でも一番を目指すこと……。出稼ぎの皆さん、もう少しの辛抱です。暖かい春が待っています。今回は女性（出てからの楽しみ）にリレーします。

スキー大会

畑山 淳子さん(大琴小・三年)



二月七日は、私たちのスキー大会です。前の夜、ナイターの練習が終わったあと、お母さんがワックスをぬりながら、「今日の高瀬のスキー大会はすごかったよ。みんな上手で、びっくりした。淳子も、あしたはがんばれよ」と言いました。

大会の日は、はり切りすぎて、いつもより早く起きてしまいました。スキー場へ行ってでもねむくてたまりませんでした。三年生は十人全員いたので、安心しました。私たちの大回転のしゅ目です。リフト小屋へ行くとき、ストック

ちびっこ
ギヤラソニー

作文編

を落としてしまいました。いやな予感がしました。けれども、私は全力をつくしてすべりました。三、四年生の部の総合で三位になり、銅メダルを首に下げてもらいました。夜、お母さんが、うれしそうに「足を広げてすべったから、おせがったんだ。これからもがんばれば、来年は一位だな」と励ましてくれました。この日の晩ごはんは、とてもおいしく、おなかいっぱいに食べました。

保健婦の 快適タイム

痛風の予防

あるとき突然足の親指のつけ根やひざの関節などが赤くはれ、文字どおり風にあたっても痛いほどの激痛に襲われる痛風は、最近急増している成人病です。

痛みは痛風の典型的な症状ですが、これは血液中の尿酸が関節や腱、腎臓などに沈着することによって起こる障害のひとつ。痛風の発作、痛風そのものを予防するには尿酸値を上げないようにすることが基本です。高尿酸症は、家系的な体質による場合が多いので、痛風家系の人は、血液検査で尿酸値を調べてもらい、高ければ、医師の指示に従って規則正しく尿酸をコントロールする薬を用います。尿酸値が高いままほうっておくと、痛みだけでなく、腎臓や心臓、脳の血管に障害がでることがありますから要注意です。

予防のためには、過激なスポーツのやりすぎ、酒の飲みすぎ、そして肥満に注意すること。食べ物では、特に尿酸値の高めの人は、プリン体の多いレバーや魚の卵、肉のエキスなどは控えめに、卵や大豆など低プリン体の食品を使った料理を中心にするように心がけてください。

(保健婦・高橋鈴子)

東由利の文芸

ゆりかご句会(二月会)

◆暖冬のやどりき背戸の木々に増ゆ 阿部義直(沼)

◆暖冬に鳩杖同志友を訪ふ 小松慶治郎(高戸屋)

◆暖冬や杖こつこつと老うこく 鈴木徳蔵(舟木)

◆老二人鳥海晴れて冬ぬくし 菊地常作(湯出野)

◆北風を戸締切って牛生まる 鈴木要(沼)

◆中近東いくさ寝て聞く朝寒し 小松徳蔵(湯出野)

◆孫の名を炬燵会議で決める夜 佐藤正義(湯出野)

◆北下し牛の涎が千切れとぶ 高橋ヒデ子(横渡)

◆冬ぬくし夜の芋桶は民話うむ 小松女沙(下小路)

◆北風にとぎれて聞ゆ救急車 小笠原トミ(蔵新田)

◆母が読むかるたに子の手重ねけり 阿部澄子(蔵)

◆寒餅を晒す北斗のかがやけり 遠藤トミ子(小倉)

◆幼な友思ひ出たぐる雪の空 小野貞子(蔵新田)

◆北下し裸木立の声聞こゆ 小笠原亮子(蔵新田)

小笠原亮子(蔵新田)



教師のつぶやき

せんせい登場

雑感

大琴小学校・吉田一男先生

今年には近年にない大雪で、子供たちの喜びは相当なものである。教室の話題は、専ら大平や矢島のスキー遊びである。

校内スキー大会に備えて、三日間のスキー教室（延べ九時間）を実施したが、親の子供に寄せる熱い期待や願いを、身につけている豪華でカラフルな用具に見ることが出来る。

地域や学校の特性に応じて自然とのかかわりの深い雪遊びやスキーを積極的に行うことができて、子供たちは幸せである。自然の中での教育が大変有効であることを

実感できたことである。お互いに教え合い、助け合い、励まし合っていく中で、豊かな心をもち、たくましく生き抜く人間に育っていくに違いないと思つた次第である。



東由利の豊かな四季の変化を楽しみながら一年を過ごそうとしているが、ふるさとのありがたさを十人の子供たちに伝えたいと思うこのごろである。

ふるさとの昔ばなし

12

善徳のわらび

語り・小松与惣吉さん（松沢）
文と絵・石渡力造



むかしむかし、野も山もすっぱりと雪に埋もれた善徳の里は、道らしい道もなく、まるで眠っているようだったけど。

山から風婆（かぜばあ）がおりてきたような吹雪の晩（よる）であった。一軒家の茂じいさんの大戸（おおと）をトントン、トントンとたたき音がするけどよ。

「…こんな大吹（おおふき）の夜中に誰だろう…」と茂じいさんは戸をあけて見たら、吹雪で真白になった旅のお坊さんが寒さにふるえながら、

「山越えしようとしたが吹雪で道に迷ってしまった、どうかひと晩（よる）厄介（ごうがい）になりたいのですが…」と、お願いするけど。茂じいさんは早速「それはえらいことだ。サアさいろりの側（そば）さきて暖（ぬか）まってけれえ…」と熱いお粥（かゆ）などでもてなした。お坊さんは茂じいさんのやさしいところ根（ね）にうたれ、お礼を差しあ

げたいと思ひ、「何も差しあげるものもありませんが、春になるとあ、く抜きせずに喰（た）べれるわらびが採（と）れますから…」とお礼をのべて翌朝、雪の山道を旅立っていった。

雪消えの谷川のせせらぎとともに、善徳の里にも春が訪れ、やがて、さしぼっこ、わらびなどが採れる季節になり、茂じいさんは裏山で採ったわらびをあ、く抜きをせずに喰べて見だんだ。

不思議なことに旅のお坊さんのお告げ通り、ねばりのあるおいしいわらびに茂じいさんはびっくりした。このお話を聞いた名主さんは、毎年お寺に納める打飯米（たひめい）のかわり、このあ、く抜きいらすのわらびを差しあげ大へん喜ばれ、その後ならわしが長く続いた。とお。とつぴんからりん山（やま）しよの実。



桃の花

桃の花といえば、まず連想するのが三月三日の雛（ひな）祭り。この日は桃の節句ともいい、桃の花を飾り、白酒で祝います。

それで、桃の花は三月に咲くと思つている人がいるのではないのでしょうか。ところが、桃の花が開くのは四月で、日本のほとんどの

土地で桜と前後して咲きます。むかし旧暦で雛祭りをやっていたころは、ちょうど花の咲く時期だったのですが、今では、温室などで特別に早く咲かせたものを飾るわけです。

桃の生産が多いのは、埼玉、群馬、福島、桃の実の生産が多いのは、山梨、福島、長野などです。埼玉県の場合は、桃の枝を切って、四日ほど水につけ、その後五、十日くらい保温してつぼみを大きくしてから出荷するそうです。

大雪の今年は、桃の花の開花も少し遅れそうを感じがします。

ふるさとを想う 34

「鳥追い」の思い出

足立区谷在家三・二一・三・五〇
森内昭二さん（田代出身・46歳）

今年には例年になく大雪ということで、古里の皆様におかれましては、さぞかしご苦労をされたことと心からお見舞い申し上げます。

私は昭和三十五年に上京し、今はささやかながら自動車部品プレス加工業を営み、好景気に忙しい毎日過ごしています。



大雪の話しを聞きますと、むかし旧正月の十五日に行なった「鳥追い」のことを思い出します。この日は近所の友だちと部落中の家を回り、いろいろを囲み餅や甘酒を味わいながら談笑しました。そしてこの日だけは夜も外にでることが許され、満月の明かりを頼りにかくれんぼなどをして遊んだものです。また、冬の一番の楽しみは何と云ってもスキーで、吹雪で前がよく見えない日でも外に出て滑つたものです。今思えば身震いのする思い出ですが、そんな時代があったからこそ、いまこうして頑張つていられるのだと思つています。

雪解けと共に山の幸に恵まれた素晴らしい季節を迎える、古里東由利町の発展を心からお祈りし、筆を置きます。

ヤブラン

(ユリ科)

文・写真 小松忠正

73



林の中のあまり日の当たらない所に生える多年草で、草の高さは30〜50センチになります。根はひげ根で短かく、紡錘状(円柱形の両端のところが膨らんだ形)になっています。葉は根出葉(短い茎に多数の葉が地に接して着く状態のもの)で

細い線形です。花は淡紫色で八月〜九月頃花茎をたて、総状花序(ふさの形にいっぱい)につけます。果実は緑黒色に熟します。根を干して煎服すると滋養、強壮、催乳、せきに効用があるといわれています。

3月 (1/1~1/31) 町のミニ統計

- 人口 () は前月比
 - ・男 2,833人(△4)
 - ・女 2,964人(△7)
 - ・計 5,797人(△11)
- 世帯数 1,422戸(一)
-
- () は1月からの累計
 - 出生1人(1) ●死亡8人(8)
 - 転入3人(3) ●転出7人(7)
- 火災出動..... 1件 (1)
- 救急出動..... 10件 (10)
- 交通事故..... 2件 (2)
 - ・死者..... 0人 (0)
 - ・傷者..... 3人 (3)
- 飲酒運転..... 0人 (0)
- 酒気帯び..... 0人 (0)

戸籍だより

(1/21) 2/20届出・敬称略

●お誕生おめでとう

1/2 佐藤 大河(幸輝・二男) 律沢

1/2 佐藤 正弥(企志・長男) 寺田

●ごめい福をお祈りいたします

1/2 畑山テツミ(78・作左衛門・妻) 土場沢

1/2 小松 長盛(75・ミツ・夫) 宇戸坂

1/2 小松 マツノ(93・正・母) 黒沢

1/2 高橋 政一(65・タチ子・夫) 下小路

3 町民カレンダー

春の全国火災予防運動 3月1日~3月7日

- 3・第3回室内ゲートボール大会(健康増進センター9時~)
- 5・3月定例議会
- 8・健康大学並びに成人病予防学級(有鄰館13時~)
- 10・第5回東由利町文化サークル発表会(有鄰館9時30分~)
- 14・住吉地区栄養改善学級(住吉会館9時30分~)
- 15・東由利中卒業式
- 16・八塩小卒業式
- 17・第2回ふるさと大学(大蔵館13時~)
- 17・水稻育苗講習会(有鄰館13時30分~)
- 18・高瀬小、大琴小卒業式
- 25・献血車来町

マイスケッチ

ねこやなぎ

小松 武さん (五海保)



春の訪れを感じさせる樹木のなかでも最も親しみのある「ねこやなぎ」。長引く寒波にじっと寒さをこらえながら、少しずつ、かわいい芽を膨らませています。

▼平成二年度最後の広報紙をお届けします。今年度は高橋宏幸先生のご厚意により、表紙を美しい絵で飾らせていただきました。毎月発行するたびに「きれいだ」「素晴らしい」などの感想をいただき、編集担当者としてうれしく、また先生に感謝の気持ちでいっぱいでした。ほんとうにありがとうございました▼さていま新年度の表紙や紙面内容をどう

編集室から

うするかで頭を痛めています。できれば表紙は引き続きカラー印刷にしたいのですが、素材がなくて悩んでいます。紙面内容を含め良いアイデアがあったらぜひお聞かせください▼なお新年度で広報紙の新しい「綴り表紙」を作ることになっています。不便をおかけしておりますが、いましばらくお待ちください▼来年度もよろしく願っています。

善意

町社会福祉協議会に畑山作喜さん(土場沢)から金一封、斎藤正三さん(西目町)から捜索協力に対する謝礼、町公民館に山口隆子さん(東京都)から図書「偽装の罠」ほか六十冊、小野松雄さん(蔵新田)から「写真でみる昭和日本史」(全十四巻)が届けられました。ありがとうございました。

広報ひがしゆり四三二号

平成三年三月一日発行

印刷・KK本間印刷所